



日本栄養・食糧学会
創立75周年記念

栄養・食糧学が拓く 未来のために

—学会の歩んだ軌跡と会員からのメッセージ—

(公社)日本栄養・食糧学会 編

建帛社
KENPAKUSHA

序

本書は日本栄養・食糧学会創立75周年記念事業の一環として刊行され、2部構成からなります。第1部は会員からの寄稿によるエッセイ集であり、会員各位に栄養・食糧について自由に執筆いただき、執筆者の個性とその足跡をうかがうこともできる興味深い73編におよぶエッセイになっています。

第2部は日本栄養・食糧学会の歴史であり、前回の50周年記念誌以降すなわち1998年（平成10年）から2022年（令和4年）にわたる活動の沿革です。これは長岡利記念誌刊行委員長をはじめ編集委員会のご努力により、この25年間の日本栄養・食糧学会の変遷を記述した貴重な資料となっております。そのなかには、2022年（令和4年）6月10日に神戸で開催された75周年記念式典や同年12月に東京で開催された第22回国際栄養学会議の内容も掲載されています。

本書は2020年（令和2年）にわが国でも始まった新型コロナウイルス感染症の波のなか、概ね3年の月日をかけて、多くの方々のご努力により完成を迎え、不易流行の神髄を伝え将来に残る優れた書物になったと考えております。どうぞ、節目を迎えた日本栄養・食糧学会の記録の保存版として75周年記念誌を座右に置いていただきたく存じます。

本書の作成にご尽力いただいたすべての方々に、深甚なる謝意を表します。

2023年11月

公益社団法人日本栄養・食糧学会代表理事・会長

吉田 博

日本栄養・食糧学会創立75周年記念誌の 編纂にあたって

日本栄養・食糧学会創立75周年記念誌の編纂の経緯を簡潔に御紹介したい。本学会の創立75周年記念事業に関する下記の3つの委員会の設置が2021年（令和3年）3月13日の理事会で決定した。その後、この3つの委員会の合同会議や理事会での審議を経て創立75周年記念事業（日本栄養・食糧学会創立75周年記念誌刊行を含む）が遂行された。ただし、日本栄養・食糧学会創立75周年記念誌の具体的な内容に関しては、創立75周年記念誌刊行委員会に任されることとなり、企画から刊行までを対応するに至っている。

- ・財務委員会

委員長：加藤久典会長，副委員長：吉田博副会長，井上和生会計担当理事

- ・記念誌刊行委員会

委員長：長岡利編集担当理事，副委員長：上西一弘編集担当理事

- ・講演会・記念式典委員会

委員長：三浦豊庶務担当理事，副委員長：関泰一郎庶務担当理事，芦田均会頭

その後、12名の構成委員からなる創立75周年記念誌刊行委員会に任されることとなり、承認された。2022年（令和4年）6月12日および2023年（令和5年）3月10日に開催した創立75周年記念誌刊行委員会において、具体的な記念誌の内容などについて審議し、記念誌は2部構成（エッセイの部：学会会員からのメッセージ、歴史の部：学会の歩んだ軌跡）とすることなどを決定した。この記念誌に関する決定内容を2023年3月25日の理事会で最終報告した。その後、エッセイの部および歴史の部の執筆担当者の選定・依頼、執筆者からの寄稿、記念誌刊行委員会の校正などを経て、記念誌の編纂に至っている。なお、歴史の部は創立50周年記念誌に記載された内容を背景に、特に、1998年（平成10年）以降の本学会の歩んだ歴史を記述した内容である。75年間の本学会の歴史に御

興味のある方は、本誌とともに、下記を御参照いただければ幸いです。

「日本栄養・食糧学会創立50周年記念 食を楽しむ健やかに生きるために
一食と栄養にかかわった学会50年の歩みと会員のエッセイ」 (社) 日本
栄養・食糧学会編

委員会で決定した本誌の題名にもあるように、エッセイの部は栄養・食糧学が拓く未来のための会員からのメッセージであり、歴史の部は栄養・食糧学が拓く未来のための学会の歩んだ軌跡であるため、この機会に多くの学会会員の皆様に本誌を御購入いただき、貴重なメッセージが広く届くことを切に願っている。同時に、学会発展の歴史が広く理解され、さらなる未来の一層の学会の発展の礎となることを心から願っている。

最後に、学会創立75周年記念誌の編纂にあたり、執筆をお願いした先生方、歴史の部の執筆のための貴重な情報を御提供いただいた先生方、学会の情報収集や編纂にあたり御尽力いただいた学会事務局の皆様、建帛社の筑紫和男氏と編集部の皆様に厚く御礼申し上げます。

2023年11月

日本栄養・食糧学会創立75周年記念誌刊行委員会委員長

長岡 利

[75周年記念誌刊行委員会] (所属・職位は委員会発足時のもの)

委員長 長岡 利 (岐阜大学シニア教授・教授)

副委員長 上西一弘 (女子栄養大学教授)

委員 池田彩子 (名古屋学芸大学教授), 石塚 敏 (北海道大学大学院教授), 江頭祐嘉合 (千葉大学大学院教授), 岸田太郎 (愛媛大学大学院教授), 佐藤匡央 (九州大学大学院教授), 白川仁 (東北大学大学院教授), 竹中 優 (神戸女子大学大学院教授), 津田孝範 (中部大学教授)

(オブザーバー) 加藤久典 (東京大学大学院特任教授), 吉田 博 (東京慈恵会医科大学教授)

目 次

■ エッセイの部 (全73編／五十音順)

1～134

「エッセイの部」詳細目次……………2

青江誠一郎 5	芦田 均 6	飯田 薫子 9
五十嵐喜治 10	池田 彩子 12	石塚 敏 14
石見 佳子 16	板倉 弘重 17	乾 博 19
井上 和生 21	今泉 勝己 23	上西 一弘 25
上原万里子 26	宇都宮一典 28	梅垣 敬三 30
江頭祐嘉合 31	海老原 清 33	大石 祐一 35
大澤 俊彦 36	大森 玲子 38	小川 正 40
小田 裕昭 42		
門脇 基二 44	岸田 太郎 46	喜田 聡 47
木戸 康博 49	合田 敏尚 51	駒井三千夫 53
近藤 和雄 55		
齊藤 昌之 57	佐藤 匡央 59	清水 誠 61
下村 吉治 63	白川 仁 64	菅野 道廣 66
関 泰一郎 67	曾根 博仁 69	園山 慶 70
高橋 享子 72	竹中 麻子 74	竹中 優 76
武見ゆかり 77	辻 英明 79	津田 孝範 81
坪山(笠岡)宜代 83		
仲川 清隆 84	長澤 孝志 86	中野 長久 87
中村 丁次 89	二川 健 91	西村 敏英 93

林 直樹 95	早瀬 和利 97	原 博 99
福田ひとみ 101	伏木 亨 102	藤田 美明 104
藤原 葉子 106	堀尾 文彦 108	
松井 徹 109	三浦 豊 111	宮澤 陽夫 113
村山 伸子 115	森田 達也 116	
山下 広美 118	山田 耕路 119	山本 佳弘 121
横越 英彦 123	吉池 信男 125	吉田 博 126
吉田 宗弘 129	渡邊 浩幸 131	渡邊 文雄 133

■ 歴史の部

135～263

I 学会の制度、活動等	138
1 理事制度の現状	(芦田 均) 138
(1) 理事制度の概要	138
(2) 公益社団法人日本栄養・食糧学会定款	138
(3) 理事制度の現状	148
2 学会事務所	152
(1) 学会事務センターの倒産	(梅垣敬三) 152
(2) 学会事務所の変遷	(近藤和雄・岡崎光子) 154
3 支部活動	(池田彩子・上西一弘) 156
4 学会誌刊行および編集委員会	(長岡 利) 162
5 英文誌刊行	(佐藤匡央) 170
6 日本医学会との関係	(吉田 博) 172
7 学会の将来計画	(吉田 博) 174
8 授賞事業関係の変遷	(三浦 豊) 175
9 学会活動強化委員会	(白川 仁) 176
10 国際交流委員会	(仲川清隆) 178
11 広報委員会	(池田彩子) 181
12 用語委員会	(長岡 利) 182

13	健康・食品保健表示検討委員会	……………(山田和彦・石見佳子) ……	183
14	国際栄養科学連合 (IUNS)	……………	184
	(1) IUNSについて	……………(宮澤陽夫) ……	184
	(2) 日本学術会議IUNS分科会	……………(清水 誠・熊谷日登美) ……	187
	(3) 第22回国際栄養学会議	……………(加藤久典・関泰一郎・仲川清隆) ……	189
15	国際食品科学・工学連盟 (IUFoST)	……………(三浦 豊・清水 誠) ……	197
16	アジア栄養学会議 (ACN) など	……………	198
	(1) アジア栄養学会議 (ACN) の概況	……………(関泰一郎・宮澤陽夫) ……	198
	(2) アジア栄養学会連合 (FANS) など	……………(加藤久典・宮澤陽夫) ……	201
17	栄養学学術連合の設立と加盟	……………(加藤久典・武見ゆかり) ……	203
	(1) 日本栄養学学術連合設立の経緯	……………	203
	(2) 日本栄養学学術連合としての活動実績	……………	204
18	東京栄養サミット2021コミットメント	……………(仲川清隆・真鍋祐樹) ……	206
19	日本学術会議との対応	……………(清水 誠・熊谷日登美) ……	207
20	宇宙食専門認定制度検討委員会	……………(二川 健) ……	208
	(1) 経緯と目的	……………	208
	(2) 宇宙食専門認定制度検討委員会の設置	……………	209
II	学会法人化の意義とそのあゆみ	……………	210
	1 学会法人化のあゆみ	……………(下村吉治・石田 均・矢ヶ崎一三・加藤久典) ……	210
	2 代議員制度と代議員選出	……………(下村吉治・矢ヶ崎一三) ……	213
	3 役員選出 (役員選出に関する答申)	……………(下村吉治・矢ヶ崎一三) ……	214
	4 団体会員制度の概況	……………(三浦 豊) ……	216
	5 COI制度	……………(松井 徹・吉田 博) ……	216
III	周年記念事業等	……………	220
	1 学会創立60周年記念式典および祝賀会	……………(村田容常) ……	220
	2 学会創立75周年記念事業の発足	……………(三浦 豊・長岡 利) ……	222
	3 75周年記念事業の実施	……………(三浦 豊・長岡 利) ……	224
	4 75周年記念式典記録	……………(芦田 均) ……	225

IV 資 料	232
1 会員数の年次変動 (1997～2022年度)	232
2 支部別正会員数・学生会員数 (1997～2022年度)	233
3 総会・会長の記録 (1998～2022年度)	235
4 名誉会員・終身会員名簿 (1998～2022年度推載)	237
5 功労賞 (1998～2022年度)	240
6 学会賞 (1998～2022年度)	242
7 奨励賞 (1998～2022年度)	245
8 技術賞 (2015～2022年度)	248
9 各種基金・助成 (1998～2022年度)	250
(1) 日本栄養・食糧学会 特定研究基金助成 (1998～2011年度)	250
(2) 栄養・食糧学学術基金 (現 栄養・食糧学基金) 国際交流助成 (2010～2022年度)	251
(3) 栄養・食糧学学術基金 (現 栄養・食糧学基金) 研究助成 (1998～2022年度)	253
(4) 栄養・食糧学基金 若手研究助成 (2016～2022年度)	255
10 会誌刊行状況 (50巻：1997(平成9)年～ 75巻：2022(令和4)年)	256
11 学会費および会計規模の年次推移 (1997～2022年度)	257
(1) 学会費	257
(2) 会計規模	257
12 役職者名簿 (1998～2023年度)	258
13 学会監修出版物一覧 (1997～2022年)	263

エッセイの部

「エッセイの部」詳細目次

【あ行】

穀物の食物繊維研究に魅せられて	(青江誠一郎)	5
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における大会	(芦田 均)	6
私と学会と食品栄養学研究	(飯田 薫子)	9
食糧資源の確保と、古くても大切と思う実験など	(五十嵐喜治)	10
食生活の現状とこれから	(池田 彩子)	12
大会運営雑感	(石塚 敏)	14
食品の栄養表示と栄養施策	(石見 佳子)	16
人間栄養学の観点から栄養を3相に分けて考える	(板倉 弘重)	17
博物学の視点でみた栄養学	(乾 博)	19
明日のごはんはなにを食べるべきか	(井上 和生)	21
日本栄養・食糧学会の一層の発展を願って	(今泉 勝己)	23
科学の進歩	(上西 一弘)	25
創立75周年に振り返る日本栄養・食糧学会と自身の関わり	(上原万里子)	26
医学と農学の連携を考える一次の75年に向けて	(宇都宮一典)	28
保健機能食品が消費者に役立つものとなるため	(梅垣 敬三)	30
画家マティスと研究者	(江頭祐嘉合)	31
非栄養素の栄養学	(海老原 清)	33
ハーフ&ハーフ	(大石 祐一)	35
食品機能研究と共に歩んで	(大澤 俊彦)	36
ライフステージと栄養	(大森 玲子)	38
時代背景に左右される研究テーマ	(小川 正)	40
基礎栄養学研究の進化：未来への展望	(小田 裕昭)	42

【か行】

オートファジーと米タンパク質	(門脇 基二)	44
栄養学を講義するようになって—近況—	(岸田 太郎)	46
日本栄養・食糧学会100周年に向けて	(喜田 聡)	47
正しく知っておそれる	(木戸 康博)	49
学問分野の統合と個人対応栄養学—Precision Nutrition—	(合田 敏尚)	51

大震災翌年の全国大会（仙台）開催の思い出……………	(駒井三千夫)……………	53
栄養学に魅せられた医師はどうなる……………	(近藤 和雄)……………	55

【さ行】

基礎研究と実践：肥満研究から見えたこと……………	(斉藤 昌之)……………	57
農学部のなかになぜ栄養学があるのか？……………	(佐藤 匡央)……………	59
栄養・食糧学会と私～助けたり，助けられたりの30年～……………	(清水 誠)……………	61
本学会の会員数……………	(下村 吉治)……………	63
栄養素と生体異物の境界……………	(白川 仁)……………	64
創立75年記念を契機とする更なる展開への期待……………	(菅野 道廣)……………	66
栄養不良の二重負荷から見た栄養と食を取り巻く世界の状況……………	(関 泰一郎)……………	67
医・農・栄を包括した健康科学アプローチを目指して……………	(曾根 博仁)……………	69
これからの栄養学のScience and Arts……………	(園山 慶)……………	70

【た行】

第70回，第76回日本栄養・食糧学会大会の会場大学として……………	(高橋 享子)……………	72
人がやらないことをやる……………	(竹中 麻子)……………	74
生成AI「ChatGPT」雑考……………	(竹中 優)……………	76
人間と食物のよりよい関係をめざす学際科学としての食生態学……………	(武見ゆかり)……………	77
私の研究雑感……………	(辻 英明)……………	79
私と日本栄養・食糧学会との関わり		
—これまでを振り返り，さらに100周年に向けて—……………	(津田 孝範)……………	81
災害×宇宙！ 栄養学の未来……………	(坪山(笠岡)宣代)……………	83

【な行】

油脂ごとにカロリーは異なる？……………	(仲川 清隆)……………	84
鈴木梅太郎とアミノ酸……………	(長澤 孝志)……………	86
80歳にしてこの夢を持ちつつ……………	(中野 長久)……………	87
栄養学を偉大なる科学：Big Scienceに……………	(中村 丁次)……………	89
秋篠宮紀子妃殿下へのご進講の思い出……………	(二川 健)……………	91
食品のkokの「見える化」と「国際化」への挑戦……………	(西村 敏英)……………	93

【は行】

健康になる食の研究と共に……………	(林 直樹)……………	95
SDGsと栄養学，学校教育……………	(早瀬 和利)……………	97

ペプチド, 食物繊維, ミネラル, リン脂質…そしてフラボノイド……………(原 博)……………	99
学会大会～今までの体験より～……………(福田ひとみ)……………	101
自己実現を支援する栄養学……………(伏木 亨)……………	102
栄養学の実験的研究への道程……………(藤田 美明)……………	104
ある女子大学の栄養学の変遷と日本栄養・食糧学会……………(藤原 葉子)……………	106
栄養学研究40年の中で思うこと……………(堀尾 文彦)……………	108

【ま行】

学会発表の今昔……………(松井 徹)……………	109
美酒・美食, 少しの甘味に彩られた日本栄養・食糧学会との関わり……………(三浦 豊)……………	111
ささやかな想い出……………(宮澤 陽夫)……………	113
これからの栄養学と自然環境・社会経済的環境の視野……………(村山 伸子)……………	115
食品栄養学者のレゾンデートル……………(森田 達也)……………	116

【や行・わ行】

第72回日本栄養・食糧学会大会の準備に思いをはせて……………(山下 広美)……………	118
現場の需要に応じた食品開発のために……………(山田 耕路)……………	119
行動変容は難しい?……………(山本 佳弘)……………	121
食品成分の栄養・生理機能に思いを寄せて……………(横越 英彦)……………	123
「栄養所要量」と「食事摂取基準」……………(吉池 信男)……………	125
日本栄養・食糧学会との出会いと今そして未来……………(吉田 博)……………	126
リンショーピン……………(吉田 宗弘)……………	129
変化する日本の家庭の食事情とそれを支える農産物生産……………(渡邊 浩幸)……………	131
日本食ブームと海苔の栄養価再考……………(渡邊 文雄)……………	133
